

1881(明治14)年、「つうさん、うちのにも美術学校に入学。絵の描いてな」と石盤を差し道へと進みました。出され、絵をせがまれて学校は今に至るまで、いたといいます。担任でこのように子どもの夢を育み、将来へと導く場とあった中島真義もつねの描く絵をいつも褒め、京なっていました。子ども都市中の小学校連合展覧の頃に何かで褒められた会への出品を勧めたりしことは強く印象に残りました。大人になっても覚えてい

たります。多くの画家が学校時代に絵を通して先生や同級生といった周りの人間と

なり、文化勲章を受章すそんな思い出が詰まっ

ることになりました。日ているかもしれない、画つながら、自己を形成し

ました。

この少女は後に画家と

周りつつながら自己形成

本画家、上村松園の小学家たちが子どもの時に描

校時代のお話です。松園いた作品が現在も学校八郎もそうしたつながら

にとつて、同級生や先生に所蔵されています。に感謝し、後に小学校へ

に絵を褒められたこと写真1898(明治31)と作品を寄贈したりして

は、絵の道に進むための年の作品で、画家の原在

大きな後押しになったこ

とでしよう。寛が高等小4年、13歳の時に制作したもので

同じく画家の福田平八

郎は中学時代、数学が大

嫌いで落第してしまいま

した。途方に暮れていた

時、小学校時代に図画を

教えてくれた先生の勧め



原在寛の京都市第一高等小学校時代の作品

(1898年、上京中蔵)



学芸員 森光彦

今ご紹介した原在寛が高等小時代に描いた作品は、学校歴史博物館(下京区)で30日まで展示